ひきこもり など

## 2025 年度

## 生きづらさのある当事者・経験者とともに 支援や社会のありかたを考える連続学習会

## 第2回 ひきこもり支援を考える

2025 年度の連続学習会は、2023 年度より継続してきた「ひきこもり」に関する取り組みの一つの区切りとして、あらためて支援や社会のありかたを問い直すことを目的としています。 これまで「ひきこもり」をめぐる支援は、治療や就労へと促すことが中心でした。

しかし、2025 年に厚生労働省がまとめた「ひきこもり支援ハンドブック」では、関係の継続や伴走の 姿勢を支援の基盤として位置づけるなど、「つながり」に注目が集まっています。

生活保障として大きな役割を担っていた家族が変容し、その機能が弱まりつつある現在、「自立からの卒業」を主張されてきた勝山実さんをお招きし、社会保障として何が求められているのかを考えます。 どのような制度あるいは関わりが、「ひきこもり」とされる人びとの権利を守り、尊厳を守ることを 可能にするのか。参加者と「ひきこもり支援」について考えたいと思います。

## au

話題提供:勝山実さん

1971年、神奈川県生まれ。横浜の大地が生んだデクノボー。

自称ひきこもり名人(中国語だと繭居大師)。高校3年時に不登校になり、以来ひきこもり生活に。

著書に「安心ひきこもりライフ」(太田出版)、「ひきこもりカレンダー」(文春ネスコ)、「バラ色のひきこもり」(金曜日/電子書籍)、「自立からの卒業」(現代書館)などがある。

好きなものは、日本酒、戦国時代、乳酸菌。

対談: 勝山実さん × 関水徹平さん(本学社会福祉学科教員)

内容:話題提供、対談、小グルースでの対話を予定

日時: 2025年12月12日(金)14:00~16:30

場所:明治学院大学白金キャンパス(詳細は参加者にお伝えします)

対象:ひきこもりなど生きづらさのある当事者・経験者、

家族、および支援者、地域活動者

定員:30名(先着順)

申込:要事前申込。QR コードからの申し込み。

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

【お問い合わせ】明治学院大学社会学部付属研究所 担当:森、竹沢メール:ssoudan@soc.meijigakuin.ac.jp 電話:03(5421)5205